

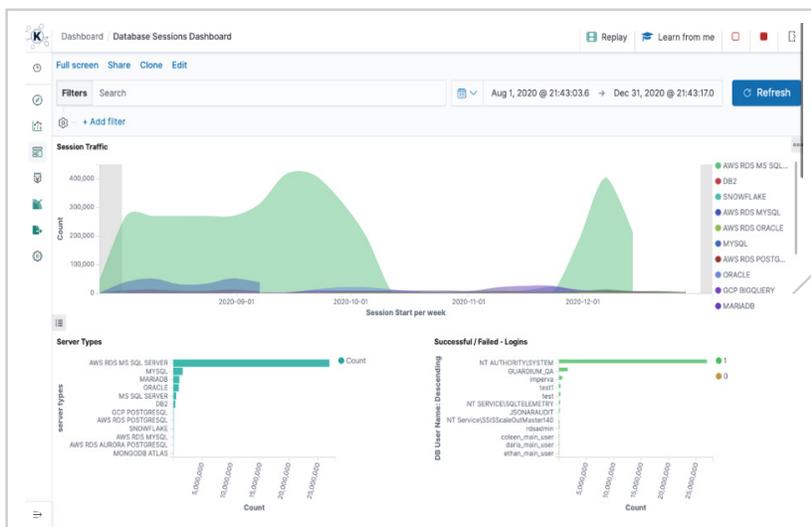
Imperva Sonarが、データベース・アクティビティ監視 (DAM) の拡張とモダナイズを実現

データのセキュリティとコンプライアンスに対する昨今の需要に伴い、企業のデータベース・アクティビティ監視 (DAM) プログラムは、もはや限界に達している可能性があります。Imperva Sonarでは、一連の新機能を採用することで、収集、報告、監査データ管理、自動化といった最新の要件に対応しています。このSonarは、企業の既存のDAM環境ともシームレスに連携することで、全体的な総所有コスト (TCO) を削減しつつ、各種機能を拡張します。

Impervaの顧客企業が、Sonarの選択によって得られるメリット

大規模な統合型の報告機能

バッチ指向型の報告システムとは異なり、Sonarでは集中管理型の充実した報告機能とダッシュボードを採用しており、リアルタイムのインタラクティブなデータ探索を実現します。Sonarプラットフォームは、広範なクラウド環境、メタデータ、Impervaの既存のゲートウェイやMXなど、あらゆるソースのデータのプルに対応しており、コンプライアンスを遵守するだけでなく、より幅広いユースケースや価値への対応のために時間を確保できます。また、高速読み取り機能により、膨大なレポートを数分間で呼び出しできるほか、セルフサービス機能により、セキュリティ・オペレーション・センター、データベース管理者、フォレンジックなど、他のチームからのアクセスも制御できます。



インタラクティブなデータベース・セッション・ダッシュボードの例: 10種類のデータベースのセッション・トラフィックを一元表示

常時稼働の監査データ

数年分のデータにリアルタイムでアクセスできるのなら、保持要件を満たすために監査データを保管する必要もないはず。Sonarプラットフォームの場合、すべての監査データは「稼働状態」であり、ファイルの保管や、データ復旧の実行は不要です。Sonarは、コアあたり5万イベント以上の割合でデータの重複排除と圧縮を自動的に行うため、高いコスト効率で適切な場所にデータを保持し、数年分の監査データを対象に、フォレンジックレベルの検索を数秒間で行えます。これに加えて、Sonarプラットフォームでは、ストレージ層（オンプレミスと、S3やAzure Blobのようなクラウドの両方）全体の最適化を行うことで、さらなるコストの発生を回避できます。

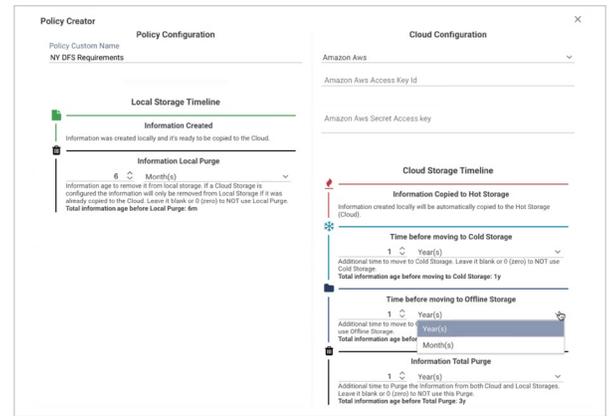
ワークフローの自動化

これまで数日間を要した作業も、わずか数分間で完了します。報告の完了、権限のレビュー、変更要求の調整といった、手作業のプロセスは、Sonarプラットフォームからそのまま自動処理できます。組み込み型のワークフローとコンテキストに応じたエンリッチメント機能により、多段階のオペレーションを調整し、利害関係者にアクションを自動指示することで、リクエストは迅速に対応され、見落としも発生しません。初期設定不要で利用可能な、数百種類もの連携機能のカタログを活用できると同時に、他のセキュリティ・コンソールからのAPIの呼び出しも可能で、応答や解決に要する時間を短縮できます。

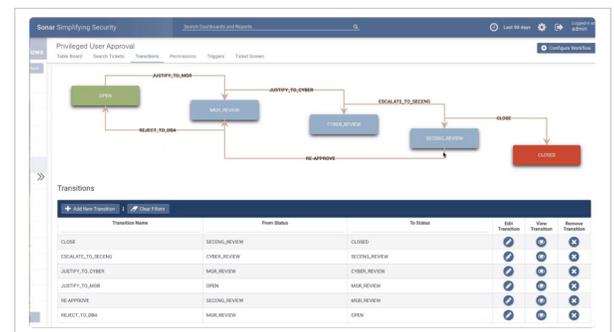
エンタープライズ全体の管理

Sonarでは、ホスト環境に関わらず、あらゆるデータ資産をエンタープライズで一元管理できます。監視機能も拡大しています。AWS、Azure、Google Cloud、Snowflake、MongoDB Atlasなど、すべての主要クラウド・プロバイダーを含む、65以上の最新データベースに初期設定不要で対応します。Sonarは、発見、分類、DAM、ユーザー権利管理、脆弱性評価など、各種セキュリティ・ツールのリスク指標を統合管理することで、エンタープライズ全体のデータベース・リスクを効果的に管理しつつ、エージェントは不要です。さらに、その時点で非対応な新規のデータベースが判明した場合、Impervaは早ければ1カ月未満でサポートを追加します。

上記は、SonarがImpervaの顧客企業にもたらす新たなユースケースとさらなる価値のほんの一例です。詳細については、Impervaの顧客担当者までお問い合わせいただくか、[imperva.com](https://www.imperva.com)にアクセスし、デモをお申し込みください。



保持ポリシー作成の例：長さ、場所、ストレージ最適化の設定を選択



ワークフローの例：特権ユーザーの承認作業を3チームに転送する自動プロセス

